

第31回

# ごはん・お米と わたし

作文・図画コンクール入賞作品集



農林水産大臣賞  
山形市立第九中学校3年 須藤 萌さん

平成19年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

# 第31回「ごはん・お米とわたし」

## 作文・図画コンクール入賞一覧

### 全国審査における入賞者

#### ○農林水産大臣賞

(図画 3 部) 須藤 萌 山形市立第九中学校 3年

#### ○優秀賞

(作文 2 部) 大池 清士 米沢市立南部小学校 6年  
(作文 3 部) 大道寺 滢 米沢市立第一中学校 1年  
(図画 1 部) 會田 三郎 山形市立南小学校 3年  
(図画 2 部) 今野英季子 三川町立押切小学校 5年

#### ○学校奨励賞

山形市立第九中学校

### 山形県審査における入賞者

#### 作文部門

##### ●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 原田 咲雪 米沢市立西部小学校 3年  
山形県農協中央会会長賞 佐藤 悠汰 鶴岡市立朝日小学校 2年  
優秀賞 伊藤 裕太 鶴岡市立朝日小学校 1年  
鈴木 彩 鶴岡市立斎小学校 3年  
宮崎 俊也 鶴岡市立朝日小学校 3年  
情野 雪海 高島町立糠野目小学校 3年  
金野 華奈 鶴岡市立羽黒第三小学校 2年

##### ●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 大池 清士 米沢市立南部小学校 6年  
山形県農協中央会会長賞 伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 4年  
優秀賞 渡部 実佳 最上町立月盾小学校 4年  
小野寺千尋 鶴岡市立朝日小学校 5年  
沖田 竜馬 米沢市立北部小学校 5年  
有賀この美 鶴岡市立朝日小学校 6年  
遠藤 拓実 庄内町立余目第二小学校 6年

##### ●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 大道寺 滢 米沢市立第一中学校 1年  
山形県農協中央会会長賞 榎本江里加 鶴岡市立温海中学校 1年  
優秀賞 渡部 香菜 鶴岡市立朝日中学校 1年  
尾形 祐佳 鶴岡市立鶴岡第五中学校 1年  
橋本 美月 米沢市立第一中学校 1年  
那須友賀子 山形市立第三中学校 2年  
後藤 萌 鶴岡市立鶴岡第三中学校 3年

##### ●学校奨励賞

鶴岡市立朝日小学校  
米沢市立第一中学校

#### 図画部門

##### ●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 會田 三郎 山形市立南小学校 3年  
山形県農協中央会会長賞 押野 尚道 鶴岡市立朝陽第二小学校 2年  
優秀賞 佐藤 俊貴 鶴岡市立西郷小学校 1年  
高橋 翔太 高島町立亀岡小学校 1年  
小黒 拓真 高島町立和田小学校 2年  
長谷川 舞 鶴岡市立黄金小学校 3年  
佐藤 琳 尾花沢市立福原中部小学校 3年

##### ●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 今野英季子 三川町立押切小学校 5年  
山形県農協中央会会長賞 伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 4年  
優秀賞 東海林 道 尾花沢市立福原中部小学校 4年  
上林 晃 鶴岡市立大山小学校 5年  
森谷 麻衣 山形市立出羽小学校 5年  
佐藤 瑞貴 鶴岡市立西郷小学校 5年  
西塚 祐斗 尾花沢市立玉野小学校 6年

##### ●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 齋藤 里沙 山形市立金井中学校 2年  
山形県農協中央会会長賞 玉虫 正和 米沢市立第六中学校 3年  
優秀賞 長岡 佑佳 山形市立金井中学校 2年  
大木 拓也 米沢市立第六中学校 3年  
石川紗己子 米沢市立第六中学校 3年  
佐藤 広康 山形市立第九中学校 3年  
志田 優花 山形市立第九中学校 3年

##### ●学校奨励賞

尾花沢市立福原中部小学校  
米沢市立第六中学校



## ごあいさつ

### 山形県農業協同組合中央会

#### 会長 遠藤芳雄

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心から御礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとございます。心からお祝い申し上げます。

三十一回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文四七七点、図画九五七点もの力作を応募いただき、全国コンクールにおいて、図画三部で農林水産大臣賞を受賞するという素晴らしい成績を修めました。また、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農協中央会賞をはじめ各賞を選考いただいたところで、これは、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらい、稲作農業を通して人々のコミュニケーションをはかっていただくために実施しております。

今回の皆さんの作品は、ごはん・お米を通じて家族への思いやり、家族や友達と食べるごはんのおいしさ・うれしさ、また、ごはん食や稲作農業の果たす役割の大きさを知ったことなどが、素直に表現されていました。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦労や努力を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。

また、家族を大切に作る心、自然を大切に作る心、生き物すべての命を大切に作る心を育み、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で、多くの大切なものを失いつつあります。生活の面からみると食料自給率は四〇％で、先進国の中では最低の水準にあります。また、朝食を食べないなど、特に若い世代を中心とした食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられ、これは生活習慣病の増大や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題となっております。

こうした中、私たちJAグループは、引き続きお米を中心とした日本型食生活の推進と、小・中学校をはじめとする地域の特徴を生かした食農教育に取り組んでまいります。

また、日本人の主食である米をはじめとして、国内で生産できる食料は国内で生産することを基本に、皆様に安全・安心な農畜産物を提供できるよう、より一層の努力をしてまいります。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

# 農林水産大臣賞



## 「共同作業」

山形市立第九中学校三年

須藤 萌



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■  
「これも しゅうかく」  
山形市立南小学校三年  
會 田 三 郎



■山形県農業協同組合中央会会長賞■  
「こめとぎのおてつだい」  
鶴岡市立朝陽第二小学校二年  
押 野 尚 道

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「しっかりおさえてて！く稲がえしく」

三川町立押切小学校五年

今野 芙季子



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「じいちゃんといっしょにみぞほりをした」

鶴岡市立朝日小学校四年

伊藤 浩司



■山形県知事賞■

「田んぼと友だち」

山形市立金井中学校二年

齋藤里沙



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「田植え」

米沢市立第六中学校三年

玉虫正和



■山形県知事賞■

「大すきおにぎり」

米沢市立西部小学校三年 原田 咲雪

「いっただきまゝす。あむあむばくばく。」何を食べているかってわたしの大こう物のしおおにぎり。作り方はかんたんです。だれにでもできます。

まず、お米をといでそこに、ごこくを入れます。ごこくというのはきび、あわ、ひえ、おし麦、はと麦。きび、あわ、ひえはちょうのたまごみたいです。麦というのは、大麦を平たくしたものでまん中に茶色い線がついています。わたしの家のごはんは、黄色や茶色のつぶつぶがまざっているのです。

つぎに、そのごはんがたいたら、手のひらを水でぬらし、しおをつけます。その手にたきたてのホカホカごはんをのせると、

「あちっ。あちー。」

あつくてにぎれません。でも、ここがまんして、いそ

いで形を作ります。丸のような、四角のようなへんてこな形。まだ、おかあさんのようにじょうずにはにぎれません。わたしの家ぞくは七人なので、十こくらいは作らなければなりません。ようやくできあがり、それをおさらのせてテールにはこびます。

「やったあー。おにぎりだあー。」

と、妹のよろこんでいる声。

「あらー。なんぼうまいんだがなあー。」

と、ほめてくれるおばあちゃん。

「さ雪が作ったの？」

と、びっくり顔のおとうさん。家ぞくみんなで声を合わせて、

「いただきますーす。」

そして、大きな口でパクリ。ほんのりしよっぱくて、ほんのりあまい。かんたんなのに、どうしてこんなにおいしいのでしょうか。まるでまほうのおにぎりです。

あつという間におさらがからっぽ。わたしは、またおにぎりをにぎらなくちゃ。

## ■山形県農業協同組合中央会会長賞■

# 「じじちゃんといっしょのごはん」

鶴岡市立朝日小学校二年 佐藤 悠汰

ぼくは、お米をたいてほかほかにして食べるのが大好きです。とくに、白ごはんが大好きです。あつたかくてやわらかくておいしいから、茶わんに三ばいも食べています。

ぼくの家では、田んぼでお米を作っています。田んぼのしごとは、じじちゃんがやっています。ぼくは、じじちゃんといっしょに田んぼに行くと、そのぶんだけいことがおこります。それは、田んぼに行きたんびにお米が大すきになっていくことです。じじちゃんのしごを手つだつたあとに、じじちゃんといっしょにほかほかのごはんを食べると、ますますごはんがおいしくなります。ぼくの家で、お米を作っていてよかつたなあと思います。お米をうえる時、トラクターで四かい土をおこします。一かいめは水を入れないでします。それは、土に水が入

りやすいようにするためです。のこりの三かいは、水を入れてこまかくぐだいてたいらにします。ぼくは、四かいも土をおこすと知ってびっくりしました。田うえの前でも、こんなにしごがあるんだなと思いました。そして、田うえきでなえをうえます。田うえきのうしろになえをおいたり、田うえきに入れるあぶらを一りん車ではこぶのが、ぼくのしごです。ぼくは、五さいごろから手つだっているので、なれてきました。ぼくがはこぶと、じじちゃんが、

「ありがとう、たすかるよ。」

と言ってくれるので、ぼくは、ますますはりきってしごとをします。

そして、三か月たつとほが出ます。いまは、ほがだんだん黄色くなってきました。じじちゃんといっしょに、田んぼの水やりをしています。田んぼのしごとはいっぱいあるので、じじちゃんの手つだいをします。

もうすぐお米ができるのがたのしみです。じじちゃんといっしょに食べたいです。

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「ごはんをおいしく食べる三つの提案」

米沢市立南部小学校六年 大池 清士

ぼくはごはんが大好きです。どんなに、いそがしくても、陸上や水泳の大会などで食べる時間がなくても、ぼくはやっぱりごはんを食べないと力が出ないような気がします。

この前、新聞のニュースでこんな話題が出ていました。「米の消費量がまた下がった。若者の食生活の変化が原困らしい。食べやすいもの、やわらかいものに人気が集

中。」  
これを見た時、ぼくは五年生で習った社会の「米づくり」の学習のことを思い出しました。米づくり農家の方は「米」という漢字を八十八と書くようにそれほど手間をかけ、工夫をして育てているにもかかわらず、日本の米の消費量が年々減って、米の生産量や農業人口の減少につながっているということです。

そこでぼくはごはんをもっとおいしく食べ米の消費量を上げる三つの提案を考えました。

一つ目は「安心・安全にこだわる」ということです。最近では食の安全が大きな話題になっています。外国産の物などは、値段が安かったり、見た目がきれいだったりするのですが、生産者の顔がわかりません。ですから米の袋に生産者の名前を入れたり、育て方のこだわりなどを表示したりすることはとても大切なことだと思います。高はた町では、

「生産者の家に消費者がわざわざ行って、米づくりの手伝いまでしているんだよ。」

という話を聞いたことがあります。一生食べるものだからこそ、安心安全という点をもっともっと強調していきたいと思います。

二つ目は「料理の工夫をする」ということです。おばあちゃんの家に行った時、色も固さも今までとはちがうごはんを食べました。

「これは玄米入りのごはんだよ。栄養、ミネラルもたっぷりで、よくかんで食べると体にとってもいいんだよ。」よくかんでみると確かに米の味がじわっと広がってうま

みが出てきました。またおばあちゃん自まんの豆ごはんもぼくは大好物です。ちよつとした料理の工夫で、栄養やおいしさが変わってくることも知っておきたいです。

三つ目は「会話して食べる」ということです。ぼくの家では、みんなの帰ってくる時間があわなくてもできるだけ家族そろってごはんを食べるようにしています。今日の出来事や母の作ったごはんの話題で、つつい時間のがのびてしまいますが、会話が何よりも「おかず」になっていきます。また、ごはんを食べる量が、多いか少ないかで、その日の元気度をおたがいに知ることができません。

これからも「安心・安全にこだわる」「料理を工夫する」「会話して食べる」というぼくの考えた三つの提案を心がけて、もっともつとおいしくごはんをいただきたいと思います。そして、ぼくの周りの人達にもぜひ紹介していきたいと思います。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「今日も田んぼで『声』を聴く」

鶴岡市立朝日小学校四年 伊藤 浩司

田んぼをわたる風が、稲の声をぼくに運んできた。

ザワザワザワ ザワザワザワ

のどがかわいたな

サワサワサワ サワサワサワ

今日の日ざしは夏の知らせだ

ゴソゴソサカ ゴソゴソサカ

のびよう のびよう

サリサリサラ サリサリサラ

ぼくが先だよ わたしものびたい

そうか、おまえたちも大きくなってきたものな。「み

ぞほり」の時期がきたのだ。じいちゃんが

「こうじ、みぞほりさいくぞ。」

と、ぼくに声をかけてきた。ぼくの出番だ。

夏になると、まず初めに田んぼのみぞほりをする。土

の分解を進めると、水を流すことで稲の活力を高める働きがあるのだそうだ。あぜの草を刈って、田んぼをきれいにする意味もある。春に植えた、二十センチぐらいだった苗が、今では五十センチを超えるぐらいになっている。二カ月で、こんなに伸びたんだ、と感じたと同時に、稲たちの生命力にびっくりした。

ぼくの家のお米作りは、春がくる前の、まだ雪深い冬に始まる。塩水選をして、塩水に沈んだ種をつかう。農薬を使わない工夫として、豊富にある雪の中に、種を入れておく。こうして、春の種まきまでねむらせておくのだ。

春、育苗機で育てた苗が、十センチぐらいになるといいよ、田んぼデビューだ。ぼくの住む朝日地区では、すっかり雪が消えるのは五月だ。だから月の名にちなんで、田植えのことを「さつき」という。遅めのデビューを果たしたぼくの家のお稲たちは、エンジンをかけてどんどん大きくなっていく。

みぞほりが終わったじいちゃんの声がかかる。

「こうじ、終わったぞ。水を入れる。」

ぼくは田んぼと水路をへだてていた木の板を外す。砂袋をどかし、田んぼに水が入るようにする。今度は板を

はめて、田んぼに入る水の量を調整していくのだ。稲を見ると、だんだん穂が出てきていた。アヤメみたいな平たい茎だったのが、だんだん丸くなってきている。穂が実っているしよこだ。

「ほら、たくさん飲んで伸びていけ。」

夕方に入れ始めた水は、晩ごはんの後まで二、三時間入れ続ける。たっぷりの水を送り込んでやる。

チヨロチヨロチヨロ

ああ つめたい 気持ちいい

シャバシャバシャバ

おいしいな もっとほしいよ

こうやって、稲たちの声を聴きながら、ぼくはじいちゃん  
の米作りを手伝っている。そしていつか、じいちゃん  
を超える米作り名人になると、今日も田んぼで声を聴く。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「心の架け橋白いご飯」

米沢市立第一中学校 大道寺 滯

ある金曜日の夕方の事です。

「こんばんは。お変わりないですか。お弁当届けに来ました。」

「はい。元気になりました。ご苦労様です。」

私の祖母について行った時の様子です。私の祖母は、社会福祉協議会東部支部の事業の取り組みの一つとして、七十才以上の一人暮らしの方や高齢者世帯、体が不自由で食事作りに困っている方々に、月二回、弁当を配達するというボランティアを行っています。祖母は、町内で十件ほど配っていますが、弁当をもらった人は、嬉しそうな顔をして、

「ありがとうございます。」

と言つてとても感謝していました。

祖母の話によると、弁当を配達してもらっている

方々は、白いご飯はおいしいし、何のおかずにも合うからありがたいと話されているという事です。さらに弁当を手渡す時に健康状態を確かめたり何か困っている事がないか聞く事もできてコミュニケーションをとるのにもとても役立っているという事も聞きました。

弁当を通して人と人との心が通じている事を感じながら、白いご飯の存在に拍手を送りたい気持ちになりました。

考えてみると、私も中学生になった今、春から毎日学校に弁当を持って行っています。お昼になり弁当のふたを開けると一粒一粒がつやつやと光っている白いご飯が真っ先に目に入ってきます。それを見るだけで幸せな気持ちになり自然に笑みが浮かんできます。この気持ちは祖母から弁当を受け取った方々の気持ちときっと同じなんだろうと思います。ほとんど毎日食事や弁当を作ってくれている母。私は毎回おいしかったよという言葉しか言っていないませんが、米を洗つとき、炊き上がったふつくらとした真っ白なご飯を弁当箱につめてくれる母の姿を想像すると感謝の気持ちでいっぱいになります。弁当を作る側の母には「おいしく食べて午後から頑張つて

ね。」という気持ちだが、また食べる側の私には「ありがとう。部活まで頑張るよ。」という気持ちが自然に生まれ、目には見えない親子の絆になっている様な気がしてきました。

日本人の主食は米です。各家庭毎日の様に白いご飯が食卓に並んでいるはず。学校の給食、病院の食事、会社などの食堂、レストランなどには、いつも白いご飯が欠かせません。

家庭でも学校や会社でもお店でも、いつも白いご飯が食べられる私達は何て恵まれているんだろうと思う事があります。世界には国が貧しくて食糧が不足し食べたくても食べられない人々もいるからです。しかし、私の心の中には、自分は恵まれているという気持ちの上に袋の様な物でおおいかぶさるかの様にモヤモヤした気持ちがあります。今の自分の力では食糧をあげたくてもあげられない、それがモヤモヤとなっにかぶさっているのです。できるものなら世界中の貧しい国々の人々に炊きたてのふつくらした白いご飯を、今すぐに届けてあげたい……。

私は、今回改めて白いご飯を通して様々な事を思ったり考えたりする事ができました。普段何気なく米を目に

し、白いご飯を食べているけれども、その存在は人間が生き続けていくために必要なものであると同時に、人と人をつなぐ架け橋にもなるものである事を感じました。私達日本人は、生涯「米」と関わっていき白いご飯の食卓をもっともっと楽しんで、古くから食べられている「米」の食文化を守っていかなければならないと思いました。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「守り続けるもの」

鶴岡市立温海中学校一年 榎本江里加

私のサイクリングコースは、家の田んぼまで行く山道です。

「あれ、何かが違うなあ。」

そう思いながら、自転車をこいでいました。いつでも田植えができるように、水を張った田んぼが多い中、田起こしがされていない所が何枚も見えました。急いで山小屋にいる祖父の所に行って聞いてみたら、

「やる人がいなくて、今年は作らない。」

と返事が返ってきました。

私の一日は、朝ご飯で始まります。八十五才の祖父が今も元気で、米作りを生き甲斐にしています。祖父が作る米は、生きています。その生きた米でいただいたご飯が私たちの体の中に入り、人間は生かされているのだなあと思うことがあります。「おいしいなあ」の一言で祖父の

顔がクシャクシャになります。

「その顔を見たさに小さい頃は、おいしいおいしいと何度も言ってたよ」

と、母に聞きました。物心のついた時から、田んぼに行っていた私たち兄妹は、田植え・稲刈りの手伝いは、当たり前になっていました。今では子供の姿を見るのは、「家くらいだなあ」と、祖父と父がちよつとうれしそうに話していました。

今年の田植えも五月の連休に合わせて、行われました。就職していた兄も休みで帰って来たし、いとこの子も二人来て、今までにない、にぎやかな田植えになりました。いつものサイクリングコースも、みんなで競争しながら、田んぼまで走って行きました。苗運びや、祖父や父の助手も、多勢でやったら楽しくて、あつという間に終わったような気がします。私に出来ることは、少ないけれども家族の一員として、おいしい米作りにいつまでも参加したいと思います。

中学生になって、改めて感じたことがあります。部活動であちこちに行く時、母は必ずおにぎりを作ってくれます。小さな時から、おにぎりは大好きだったけど、こ

んなにもおいしかったのかと実感しました。茶わんで食べれば、一杯がやつとなのに、おにぎりは「もう一個」と手を出させる魅力があります。にぎりたてでもさめたものでも、食べれば元気が沸いてくる。我が家のご飯は一番です。

春と秋しか田んぼに行かない私たちに比べ、必ず毎日行く祖父には頭が下がります。父は仕事があるので休みの日に行きます。毎日田んぼに行つて何をやっているのか、聞いてみたら、農薬をかけたたり、水を見たり、草刈りなどなど、次から次へとやることがあるそうです。一番の楽しみは、一日一日成長する稲を見ることで、台風が来ないように、豊作になるように…と、願わずにはいられないそうです。家族みんなに美味しい米を、と思う祖父の責任が感じられました。手をかけて、大切に育てられた米だからこそ、一粒一粒に味があるのだと思います。年を取つて大変そうだけど、もう少し私たちのために米づくりを頑張つてほしいです。

年々減つていく田んぼをみるのは、何とも淋しい思いがします。耕されて、水を吸つて生きているのに、使わなければ命が働かず、荒れてしまいます。一度荒らして

しまった田んぼを復活させるには、倍以上の時間がかかるそうです。我が家の田んぼは、耕して話しかけて、いつまでも元気な田んぼにしておかなくてはなりません。

稲にとつては、これからが一番うれしい季節です。太陽をいっぱい吸つて穂がふくらみ秋には、重そうに重そうにおじぎをします。はずかしそうにも見える穂の顔は、まさに、黄金色のジュータンです。祖父や父が、

「豊作だぞー。いい米が出来たぞー。」

と喜ぶように、自然と稲刈りにも力が入る私です。つやつやと光る新米で、また大好きなおにぎりをおなかいっぱい食べたいです。年老いた祖父に負けないように、家族みんなで守つて行かなければならない、大切な大切な田んぼです。

# 作文部門審査講評

山形県教育庁義務教育課指導主事 近内孝哉

第三十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール作文部門には、県内六四校より四七七点の作品応募がありました。

全国コンクールでは、二作品が優秀賞を受賞されました。本当におめでとうございます。両作品とも自分の体験をもとに「ごはん・お米」に対する思いをしっかりと表現しています。関係者の皆様の実践の成果と、心より敬意を表したいと思います。

以下、県審査の結果、県知事賞、県農協中央会会長賞を受賞された作品について紹介します。

## 第一部（小学校一年生から三年生）

○「大すきおにぎり」（米沢市立西部小学校三年・原田咲雪・県知事賞）は、体言止めを数多く用いたり、会話を効果的に活用したりすることで、文章全体から生き生きとした印象を受ける作品となっています。咲雪さんの握ったおにぎりを囲んだときの、家族の笑顔が見えるようです。

○「じじちゃんといっしょのごはん」（鶴岡市立朝日小学校二年・佐藤悠汰・県農協中央会会長賞）からは、悠汰くんのおじいさんに対する思い、そしておじいさんの作るお米に対する思いがよく伝わってきます。田植え機に入れる燃料を一輪車で運ぶ場面では、「これからはがんばれ。」とエールを送らずにはいられません。

## 第二部（小学校四年生から六年生）

○「ごはんをおいしく食べる三つの提案」（米沢市立南部小学校六年・大池清士・県知事賞）は、全国コンクールで優秀賞を受賞しました。これまで学校で学んだことや「ごはん・お米」に対する自分の考えを、「安全・安心」、「料理の工夫」そして「会話しながら食べること」の三つをキーワードとしてよく整理されています。たいへん説得力のある作品です。

○「今日も田んぼで『声』を聴く」（鶴岡市立朝日小学校四年・伊藤浩司・県農協中央会会長賞）は、おじいさんと一緒に米づくりに関わってきたからこそ聴こえる「稲の声」を、詩にまとめて最後に挿

入するなど、独特の表現が快い作品です。特に、「そしていつか、じいちゃんを越える米づくり名人になろうと、今日も田んぼで声を聴く」という文末は、読むものの胸を打ちます。

## 第三部（中学校一年生から三年生）

○「心の架け橋白いご飯」（米沢市立第一中学校一年・大道寺澤・県知事賞）も、全国コンクールで優秀賞を受賞しました。「弁当配達のお母さんのボランティア活動」という特徴的な体験を取り上げ、その中から人と人との心の通じ合いを発見し、視野を広げ、「日本の米の食文化を守ろう」ということに到達しているところが優れた点です。弁当を持つ人と学校で弁当を開ける自分の心に共通するものをとらえる、柔らかく、鋭い感受性が感じられる作品です。

○「守り続けるもの」（鶴岡市立温海中学校一年・榎本江里加・県農協中央会会長賞）には、サイクリングで目にした田の荒れ、家族や親類と一緒に田植え、祖父への感謝、といった体験と心情が、素直で弾むような文章で綴られています。全体を通じたあたたかい表現から、祖父と家族、米と人々、そして米の未来に対する思いが伝わってくる作品です。

その他、優秀賞を受賞された作品も、それぞれ、読み手に感動を与える作品ばかりでした。また、県学校奨励賞は、鶴岡市立朝日小学校と米沢市立第一中学校が受賞されました。両校とも、多くの先生方の御支援により、すばらしい作品をお寄せいただきました。

この度の応募作品には、自分の体験を土台として、「ごはん・お米」に対する考えを整理したり、広げたり、深めたりしていることが、十分伝わってくるものが多く、審査員一同、大きな感銘を受けました。「ごはん・お米」は、私たち日本人の生活にかかせないものであることを考えたとき、一人一人それぞれに、その子どもでなければ語ることのできない体験や思いがあるはずで、来年度以降も、こうした体験や思いが綴られた、心温まる作品が数多く寄せられることを期待いたします。

# 評講審査部門画図

修 田 相 山形市立第十中学校校長

第三十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画部門には、県内一〇八校より九五七点の作品応募がありました。その中から優れた作品を選び出す県審査を行いましたので、結果を紹介します。

## 第一部（小学校一年生から三年生）

○「これも しゅうかく」

（山形市立南小学校三年・會田三郎・県知事賞）

たわわに実った稲穂の中をかきわけかきわけ、その中でやっと出会った二匹のイナゴ。イナゴを見つめる目、そっと伸ばす手の表現にその瞬間の緊張感が伝わってきます。一粒一粒よく観察して描いた充実した米粒と、重く頭を垂れた稲穂による画面構成も効果的です。そして、黄金色を引き立てる赤い服など、色使いもよく工夫されています。心をわくわくさせるかけがえのないこの時間も、彼にとっては収穫そのものですね。

○「こめときのおてつだい」

（鶴岡市立朝陽第二小学校二年・押野尚道・県農協中央会会長賞）

家族みんなでおいしいごはんが食べたいなと願いを込めながら、ごしごしと米をとぐ様子がよく伝わってきます。力を込めて敵しい表情の自分と手を添えながら温かく見守るお母さんの表情に、日常の何気ない生活の中で育まれる家族のきずなを感じます。毎日の私たちの食を支えるお米が、こんな形で家族をも支えていることに気づかされます。

## 第二部（小学校四年生から六年生）

○「しっかりおさえて！〜稲がえし〜」

（三川町立押切小学校五年・今野美季子・県知事賞）

刈った稲の乾燥を早めるための稲の掛け替え作業の様子を木版画で表現しました。稲束が落ちたりしないようしっかりとおさえる様子が力強い手で表わされています。収穫した稲を大事にする気持ちで穂の一粒一粒の米の表現からも伝わってきます。稲束を縛ったわらやくい、身体の明暗が作品にめりはりを与えています。秋の日差しも伝わってきます。

○「いいちゃんといっしょにみぞほりをした」

（鶴岡市立朝日小学校四年・伊藤浩司・県農協中央会会長賞）

みどりいっばいの田んぼの中で力強く作業するじいちゃんの様子がいきいきと描かれています。大らかで堂々とした表情、袖をまくり上げたたくたくましい腕に力が込められています。くしゃくしゃにした画用紙に描いた緑が美しく、大胆な構図が動勢とともに安定感も表しています。秋にはたくさんのお米が獲れたでしょうね。

## 第三部（中学一年生から三年生）

○「田んぼと友だち」

（山形市立金井中学校二年・齋藤里沙・県知事賞）

仲間と共に行った田植えの体験学習の様子を表しました。新しい水が張られた水田や遠くの方々の緑の季節の勢いが伝わってきます。背景で作業を進める人や置かれた自転車などもよく観察して描いています。手だけでなく顔にまで泥を付けた仲間の声が聞こえてきそうです。

○「田植え」

（米沢市立第六中学校三年・玉虫正和・県農協中央会会長賞）

黙々と田植えを体験する生徒の真剣さが伝わってきます。その作業から何か精神的なものまで学び取っているようにさえ感じられます。水の表現やその中に手足が入っている様子、また、運動着を通しての身体の動きもよく見て描いています。温度や空気の流れも伝わってきます。

県学校奨励賞は、尾花沢市立福原中部小学校と米沢市立第六中学校が受賞しました。おめでとうございます。

全国審査の結果、山形市立第九中学校三年・須藤萌さんの「共同作業」が農林水産大臣賞を受賞されました。また、全国学校奨励賞に山形市立第九中学校が選ばれました。本当におめでとうございます。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門の作品には、学校の体験学習や家庭生活の中での児童生徒や家族の人々の活動の様子が生き生きと表現されています。そこに描かれている人々は健康的で温かい雰囲気にあふれ、表情豊かで生きる力が満ちています。また、体験を通して得た実感をもとに、構図や色づかいも工夫して表現できる点が優れた作品を生み出すのでしよう。

今後は、児童生徒一人ひとりの感動や思いを引き出し、より個人的な表現で、のびのびとした作品を生み出す指導がなされることをさらに期待したいものです。

第25回	第24回	第23回	第22回	第21回	第20回
<p>●<b>県知事賞</b> 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 森 麻美(榊引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 今井 大輔(鶴岡市) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤真生子(最上町) 齋藤 那千(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 佐藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 齋藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(榊引町) 田中 麻衣(山形市) 齋藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 古川 千李(三川町) 安達 悠(高島町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 清和 千秋(榊引町) 瀧口 郁(天童市) 庄司 千鶴(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 本間 明音(鶴岡市) 渡部 大地(朝日村) 有賀真紀子(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 黒坂 雄志(最上町) 竹田実穂子(米沢市) 齋藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 結城 智裕(最上町) 岸 詩音(最上町) 高橋 隆浩(高島町) 稲葉 彬(天童市) 近野健三郎(高島町) 阿部 晴美(最上町) 小野寺美夏(朝日村) 大谷汐沙李(飯豊町) 原田 久美(最上町) 田中絵理加(最上町) 結城 重則(東根市) 高橋 愛実(山形市) 佐藤 牧(朝日村) 原田 智広(高島町) 本木いずみ(東根市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 三浦 春菜(鶴岡市) 黒坂 星児(最上町) 萩原菜々美(高島町)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 大石 美恵(最上町) 菅 喜美広(最上町) 森谷さとり(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 裕子(尾花沢市) 菅原 南(鶴岡市) 高橋 隆浩(高島町) 加藤 梓(鶴岡市) 藤畑 康宏(最上町) 佐藤 秀樹(最上町) 奥山 恵里(最上町) 石山 崇人(最上町) 阿部 留佳(朝日村) 菅 晃菜(最上町) 島津 智子(高島町) 佐藤真寿美(高島町) 阿部 哲(南陽市) 伊藤 千尋(朝日村) 小川 結(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立赤倉小学校 高島町立第一中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 加藤 梓(鶴岡市) 加賀 知世(尾花沢市) 村山 直美(天童市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 橋本 菜穂(最上町) 原田 久美(最上町) 小庄間裕子(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 岸 健一朗(最上町) 山田 寿広(最上町) 大石 美恵(最上町) 後藤 明美(高島町) 近野 健二(高島町) 大場 哲也(最上町) 石山 雄洋(最上町) 石山満理奈(最上町) 佐藤 康徳(米沢市) 齋藤真貴子(朝日村) 氏居 生良(山形市) 前田 恵美(山形市) 中嶋 桃子(山形市) 原田 優子(天童市) 五十嵐小夜子(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 高島町立屋代小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 鈴木 裕美(高島町) 堀 文子(酒田市) 高梨 邦祐(高島町)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 小松 主音(高島町) 柴田 育恵(大石町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 佐藤 駿佑(米沢市) 吉田 洋平(高島町) 矢口 渡(鮭川村) 大場 智美(最上町) 奥山 恵里(最上町) 鈴木まりこ(山形市) 小山田由起子(河北町) 菅 晃太(最上町) 佐藤 舞子(米沢市) 伊藤理恵子(米沢市) 阿川 麻里(山形市) 東海林 宏(山形市) 中鉢 佳奈(天童市) 佐藤 紘子(朝日村) 清野 美幸(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 高島町立和田小学校 天童市立第二中学校</p>
<p>●<b>県知事賞</b> 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 片岡 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗矢佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石町) 結城 弘斗(最上町) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 井上 庸(上市市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 五十嵐祐大(鶴岡市) 菅野 瞳(尾花沢市) 武田 彩子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 西塚 真治(尾花沢市) 今野 里紗(鶴岡市) 長尾 藍(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 小林 由典(白鷹町) 落合 和也(尾花沢市) 木村 和人(鶴岡市) 佐藤 綾子(尾花沢市) 本間 翔太(尾花沢市) 高橋 茉莉(最上町) 大山 美幸(尾花沢市) 赤松かおり(最上町) 工藤 竜也(尾花沢市) 佐藤 伸也(新庄市) 鈴木 裕子(山形市) 友寄 歩惟(上市市) 庄司美智子(上市市) 遠藤真理子(山形市) 遠藤由紀子(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立栄小学校 上市市立北中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 本間 裕紀(尾花沢市) 飛渡 沙織(大石町) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 遠藤 美佳(尾花沢市) 渡部 達(朝日村) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 伊藤 由貴(尾花沢市) 渡部みなみ(高島町) 荒木 渚(鮭川村) 横山 浩輔(尾花沢市) 高橋 真美(最上町) 北條 隆大(最上町) 星川 瑠美(尾花沢市) 小野 貴紀(尾花沢市) 高橋 梨絵(最上町) 庄司 修(最上町) 溝越 清美(山形市) 公平 央恵(米沢市) 小野 展裕(山形市) 武田 彩子(山形市) 吉田由紀子(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 渡邊 克也(最上町) 有路 沙織(尾花沢市) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 大山 和(尾花沢市) 高橋 雄太(尾花沢市) 會田 恵里(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 須藤 賢東(山形市) 古瀬 友香(尾花沢市) 伊藤 敏彦(尾花沢市) 岡野 浩美(最上町) 加地華南子(高島町) 花輪みゆき(天童市) 笹原可奈子(尾花沢市) 五十嵐隆介(尾花沢市) 古瀬智佳子(尾花沢市) 武田ゆかり(尾花沢市) 高橋 栄(山形市) 栗原 美穂(山形市) 阿部 誠司(山形市) 丹 奈帆子(山形市) 寺崎 久世(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第五中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 大類 祐美(尾花沢市) 白井 靖浩(尾花沢市) 齋藤 明子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 深瀬 美幸(高島町) 岩松 泉(山形市) 有路 奈央(大石町)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 森谷 雄太(山形市) 長岡 希(山形市) 小林 龍宏(尾花沢市) 土屋 引一(南陽市) 工藤 誠昭(朝日村) 齋藤 啓(大石町) 加藤 初恵(尾花沢市) 奥山 和泉(尾花沢市) 岡野 咲子(最上町) 渡部 禎子(南陽市) 原田 沙樹(山形市) 池野まり子(山形市) 入間 利恵(高島町) 青柳みちよ(高島町) 阿部 陽一(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立向町小学校 山形市立第四中学校</p>

第31回	第30回	第29回	第28回	第27回	第26回
<p>●<b>県知事賞</b> 原田 咲雪(米沢市) 大池 清士(米沢市) 大道寺 滯(米沢市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 佐藤 悠汰(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 榎本江里加(鶴岡市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 伊藤 裕太(鶴岡市) 鈴木 彩(鶴岡市) 宮崎 俊也(鶴岡市) 情野 雪海(高島町) 金野 華奈(鶴岡市) 渡部 実佳(最上町) 小野寺千尋(鶴岡市) 沖田 竜馬(米沢市) 有賀この美(鶴岡市) 遠藤 拓実(庄内町) 渡部 香菜(鶴岡市) 尾形 祐佳(鶴岡市) 橋本 美月(米沢市) 那須友賀子(山形市) 後藤 萌(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第一中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 阿部拓悠真(庄内町) 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 後藤 剛(高島町) 渡部 愛(米沢市) 佐藤 麻衣(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 渡部 由夢(高島町) 阿部 理沙(鶴岡市) 高橋 恵美(最上町) 阿部 貴之(鶴岡市) 斎藤 蓮奈(鶴岡市) 佐藤 彩絵(鶴岡市) 菅野明日香(高島町) 小林 桜子(山形市) 有賀この美(鶴岡市) 佐藤 誠(庄内町) 山口 真盛(鶴岡市) 川田美沙樹(山形市) 今野 若奈(鶴岡市) 榎本有紀子(鶴岡市) 富樫 美穂(南陽市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 庄内町立余目第二小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 伊藤 浩司(朝日村) 石山 芽生(最上町) 大湊 希(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 貴之(櫛引町) 齋藤 玲奈(羽黒町) 阿部 咲輝(朝日村) 佐藤 緑(山形市) 鈴木菜都美(大石町) 上野由香里(朝日村) 難波 和希(朝日村) 山木 理央(高島町) 香澤 真佑(最上町) 橋本 大来(最上町) 大浦 沙織(高島町) 斎藤 那千(朝日村) 御橋夏津子(鶴岡市) 武田 奈緒(鶴岡市) 清野 郁(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 奥山 雅生(最上町) 守岡 雄朗(鶴岡市) 工藤 瑞穂(東根市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 石山 加奈(最上町) 菅 風沙(最上町) 伊藤 匠平(最上町) 渋谷 生帆(鶴岡市) 清野 真希(鶴岡市) 今井 大輔(鶴岡市) 菅井美香子(村山市) 五十嵐由香(鶴岡市) 大池 響子(米沢市) 阿達 大和(最上町) 稲垣菜里香(長井市) 土方 花重(鶴岡市) 南齋 宏駿(米沢市) 貝田 理沙(山形市) 宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立富沢小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 伊藤佐久磨(朝日村) 小野寺寛貴(鶴岡市) 菅原 香織(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 伊藤 睦美(朝日村) 本間 稚菜(鶴岡市) 安孫子 郁(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 二宮明日香(高島町) 阿部亜紗子(最上町) 大貫 秀平(最上町) 清野 史拓(朝日村) 佐藤 拓夢(鶴岡市) 岸 はづき(最上町) 渋谷 彩香(山形市) 二戸 浩太(最上町) 阿部 貴敏(最上町) 秋野 寛齋(鶴岡市) 松田 恵(南陽市) 川崎 成也(南陽市) 清野 郁(朝日村) 中里恵里香(朝日村) 難波 和宏(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高島町)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高島町) 後藤なつみ(高島町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(最上町) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 優(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>
<p>●<b>県知事賞</b> 會田 三郎(山形市) 今野美季子(三川町) 齋藤 里沙(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 押野 尚道(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 玉虫 正和(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 佐藤 俊貴(鶴岡市) 高橋 翔太(高島町) 小黒 拓真(高島町) 長谷川 舞(鶴岡市) 佐藤 琳(尾花沢市) 東海林 道(尾花沢市) 上林 晃(鶴岡市) 森谷 麻衣(山形市) 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 西塚 祐斗(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 大木 拓也(米沢市) 石川紗己子(米沢市) 佐藤 広康(山形市) 志田 優花(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立福原中部小学校 米沢市立第六中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市) 日下部仁美(米沢市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 大瀬 海斗(尾花沢市) 浜田ひかり(南陽市) 木村 友美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 星川 瑞生(山形市) 石山 詩穂(尾花沢市) 新田 尚太(山形市) 笹原浩太郎(尾花沢市) 佐藤つぐみ(鶴岡市) 加賀 東杜(大石町) 溝越 舞子(尾花沢市) 藤谷 睦姫(鶴岡市) 鈴木 潤(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 遠藤 瑞紀(山形市) 伊藤 茜(山形市) 神田 涼真(米沢市) 佐藤 勇太(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立高橋小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 菜純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 笠原 鍊(最上町) 難波 沙英(朝日村) 小野紗由季(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 東海林梨奈(尾花沢市) 倉金 卓美(尾花沢市) 柴崎 日向(尾花沢市) 原田 桃香(尾花沢市) 阿部 風子(尾花沢市) 西尾 昂太(尾花沢市) 荘司 留加(尾花沢市) 斎藤 千佳(朝日村) 七森 結花(朝日村) 佐藤 光(温海町) 古関 彰(山形市) 花等 雄太(山形市) 小玉 愛(上市市) 古川 千夏(山形市) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 笹原 瑞紀(尾花沢市) 乙坂ひかり(温海町) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 蛸井 葉月(鶴岡市) 難波 紗久(朝日村) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 翼(最上町) 高野 陽希(最上町) 木村さえり(鶴岡市) 高橋 龍星(大石町) 本間 円(尾花沢市) 佐藤真理絵(温海町) 小内 将弘(尾花沢市) 鈴木 結(藤島町) 岡分 雅哉(尾花沢市) 須田 琳子(鶴岡市) 日下部まどか(山形市) 設楽なつみ(山形市) 清野 美香(山形市) 伊藤 歩(山形市) 吉田真優美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 温海町立温海小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 荘司 留加(尾花沢市) 伊藤 祐太(尾花沢市) 村上 美織(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 阿部 行成(鶴岡市) 須田 雄飛(鶴岡市) 武田亜沙美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 庄司 菜菜(尾花沢市) 村岡 孝一(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 渡部 香菜(朝日村) 佐藤 史彬(高島町) 渡辺 大平(尾花沢市) 菅野 慎也(尾花沢市) 有路 里香(尾花沢市) 古瀬 裕真(尾花沢市) 阿部 貴文(鶴岡市) 古川 知美(山形市) 須貝 恵美(山形市) 高島 香織(山形市) 椎名 俊一(山形市) 鈴木 聖美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 惠梨(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 国分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 昶史(尾花沢市) 安達 美咲(高島町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 田村 里奈(山形市) 村上 惠紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>

## 第31回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール審査経過の概要

### ■応募数

作文：477点  
 図画：957点                      合計 1,434点

区分	第1部	第2部	第3部	計
作文部門	33点	217点	227点	477点
図画部門	429点	499点	29点	957点

### ■審査

- (1) 県予選審査期日(作文・図画部門合同で開催)  
平成18年10月20日(金)
- (2) 全国コンクールの結果  
農林水産大臣賞(図画3部1名)、優秀賞4名(作文2部1名、作文3部1名、図画1部1名、図画2部1名)、学校奨励賞1校
- (3) 県審査会期日(作文・図画部門合同で開催)  
平成19年1月17日(水)

### (4) 入選作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点  
 山形県農業協同組合中央会会長賞 作文3点、図画3点  
 優秀賞 作文15点、図画15点  
 学校奨励賞 作文2校、図画2校

### ■審査員

#### 作文部門(5名)

審査委員長 近内 孝哉(山形県教育庁義務教育課指導主事)  
 齋藤 良枝(山形市立第一小学校教諭)  
 松野 俊彦(山形市立西小学校教諭)  
 渥美由紀子(山形市立第五中学校教諭)  
 小野 孝子(天童市立第二中学校教諭)

#### 図画部門(4名)

審査委員長 相田 修(山形市立第十中学校校長)  
 工藤 悦子(山形市立出羽小学校教諭)  
 神野 恭一(山形大学附属小学校教諭)  
 笹原 聡(山形県教育庁村山教育事務所指導主事)

### ■表彰式

平成19年2月3日(土)

山形市「オーヌマホテル」

年度	部門	第1部	第2部	第3部	合計
4 (第17回)	作文 図画	212 982	350 767	135 32	697 1,781
5 (第18回)	作文 図画	210 1,276	359 964	217 54	786 2,294
6 (第19回)	作文 図画	167 1,164	330 820	179 53	676 2,037
7 (第20回)	作文 図画	220 781	300 647	138 23	658 1,451
8 (第21回)	作文 図画	201 639	337 507	152 66	690 1,212
9 (第22回)	作文 図画	63 643	229 461	69 40	361 1,144
10 (第23回)	作文 図画	75 907	137 594	117 47	329 1,548
11 (第24回)	作文 図画	108 869	195 450	108 26	411 1,345
12 (第25回)	作文 図画	65 495	122 311	112 9	299 815
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957

# ●第31回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領●

## 1. 趣 旨

このコンクールは、お米・ごはん食、稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらおうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとお米・ごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

## 2. 「作文・図画の課題」「応募資格」

### 「応募規格（枚数・大きさ）」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

#### 【課題】（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

#### 【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。なお、盲学校、聾学校および養護学校の小学部、中学部も上記の小学校、中学校に準ずるものとします。

#### 【応募規格】（枚数・大きさ）

##### ●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生  
(400字詰市販原稿用紙2枚)
- 2部 小学校4年生～6年生  
(400字詰市販原稿用紙3枚)
- 3部 中学校1年生～3年生  
(400字詰市販原稿用紙4枚)

##### ●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
  - 2部 小学校4年生～6年生
  - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販用紙を使用。画材はとくに制限しません。

#### 【応募規則】

- (1) 課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
- (4) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表を必ず添付してください。
- (6) 作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)  
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。  
①作品の題名 ④学校所在地(郵便番号・電話番号)  
②氏名・性別 ⑤本人住所(郵便番号・電話番号)  
③学校名・学年・組 ⑥J A名(農協名)
- (7) 大臣賞およびJ A全中会長入賞作品はJ A全中に1年間保管し、県知事賞・J A山形中央会会長賞

作品は、1年間協同の杜J A研修所に展示しますが、これ以外の作品は返却します。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会に帰属します。

- (8) 本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報、承諾なく第3者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品展示などの広報活動で公表する場合があります。

## 3. 締切日

平成18年10月6日(金)(必着)

## 4. 入賞発表

全国発表 平成18年12月1日  
本県発表 平成19年1月18日

## 5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

- 山形県知事賞  
両部門各部門ごとに1名 計6名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書券)
- 山形県農業協同組合中央会会長賞  
両部門各部門ごとに1名 計6名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書券)
- 優秀賞  
両部門各部門ごとに5名 計30名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書券)
- 学校奨励賞  
両部門ごとに2校 計4校  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書券)

## 6. 審査員

県教育庁、小・中学校教諭、J A山形中央会

## 7. 応募先

- (1) 県内の各J Aを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次に問合わせください。  
〒990-0042  
山形市七日町三丁目1-16  
山形県農業協同組合中央会  
(J A山形中央会)  
農業農政部  
「作文・図画コンクール」係  
TEL 023-634-8114  
FAX 023-633-1754

## 8. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。
- (2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の課題		
ふりがな氏名	-----	性別 男・女
ふりがな学校名	-----	立 学校 年 組
ふりがな学校所在地	〒 TEL	
ふりがな本人住所	〒 TEL	
J A名 (農協名)		

(注) 太い線で囲んだ部分は必ず記入して下さい。ふりがなも必ず記入して下さい。

ごはん大好き お米がーっ

毎月8日は  
お米・ごはん  
の日



ごはんちゃん

©JA-ZENCHU 2001 All rights reserved

「ごはんちゃん」はJAグループの  
米消費拡大推進キャラクターです。

